



岸川中だより

「春の前には厳しい寒さ」

校長 三浦 伸之

数年に一度の大寒波とやらで、とても寒い日が続いていますね。この時期には毎年「暦の上では立春ですが、この冬一番の寒さとなっています。」という台詞をテレビやラジオで耳にしている気がします。これと同様に、「暦の上では秋なのに、いつまでも暑い日が・・・」というのもよく聞きますよね。なぜ、私たちの季節感とこんなにずれがあるのか？それは1年を24分割した二十四節季のためだそうです。二十四節季では、春は「春分の日」、夏は「夏至」、秋は「秋分の日」、冬は「冬至」を中心とした3か月間を、それぞれ春・夏・秋・冬としています。なので、冬至と春分の日の間が立春、夏至と秋分の日の間が立秋となるため、立春は冬の真ただ中、立秋は残暑の中となり、私たちの季節感とはずれている訳ですね。ちなみに気象庁の区分では、春：3月～5月、夏：6月～8月、秋：9月～11月、冬：12月～2月となっているそうです。ただ、四季を昔ほど感じられない今の日本には、これも当てはまらないような気がします。いつかまた、四季を感じられるようになるのでしょうか。日本の美しさでもある四季折々の風景がそして、食いしん坊の私は、季節ごとの美味しい旬の味が、もう一度その季節に感じられる日が帰ってきてくれることを切に願います。

1月の28日に1年生が川越に、2月6日には2年生が上野・浅草・東京方面へ、校外学習に行ってきました。1年生の校外学習の日の数日前の天気予報では1月28日は雨予報、2年生の日は寒波の影響で都心でも氷点下という予報でしたが、どちらも天気に恵まれ、日中は暖かく、本当に校外学習日和で最高でした。どちらの学年もマナーを守り、お互いに協力し、楽しんでいる様子が印象的でした。見知らぬ場所に行き、文化やその土地の人々とふれ合うこと。トラブルが起きても、自分たちで考え、臨機応変に対応すること。「百聞は一見にしかず」とよく言いますが、まさに体験しながら学び、生きた知識を身に付ける校外学習は生徒にとって大切な学びであることを改めて実感しました。1・2年生もこの校外学習を通して成長できたものと思います。

さて、3年生は公立高校の受検を控えている生徒が多い中、出願も無事終わり、今月末の受検に向けていよいよ追い込みに入っています。授業の様子を見に行っても、とても落ち着いた雰囲気になっています。また、私立等で進路がすでに決まっている生徒も、公立受験生に配慮して生活している様子が見られ、岸川中3年生の温かさが伝わってきます。私も私立受験組だったのですが、岸川中の3年生のように落ち着いて生活できたかと今考えれば、全く落ち着きがなかったどころか、油断しまくりの緩みっぱなしだったような気がします。勉強もなし、部活もなし、でも時間は沢山ある。考えていたことといえば、早く高校生になって名門校の吹奏楽部で演奏したい。ということばかり。怠惰な毎日を送ったせいで1月から卒業式までの記憶があまりありません。なので「あの時、もっとしっかり過ごしていれば」という悔いも残っています。3年生のみなさんは私のような生活を送らないように！卒業式まであと1ヶ月を切っています。岸川中学校の生徒として過ごすことができる残りわずかな時間をどのように使うかは皆さん次第です。でも、3年間、苦楽を共にしてきた仲間です。どうかみんな受検という厳しい寒さを乗り越え、残りの学校生活を笑顔で過ごし、楽しい記憶として残るよう過ごしてください。厳しい冬を乗り越え後には暖かな春が待っていますよ！！

令和5年度全国健康づくり推進学校最優秀校を受賞しました

令和6年度学校保健文部科学大臣賞を受賞しました

2024 Kishikawa.J.H.S 51st